

ありのままの自分でいられる学級をどの子にも ～不登校対応 今、大切にしたい「3つのアプローチ」～



不登校対応の最終目標は、長期的な視野に立って社会的自立を目指すところにあります。これは、すべての子どもを対象とするものであり、まずは、「誰もが行きたくなる学校や学級づくり」を進めることが重要です。その際、子ども一人一人の内面にも目を向けながら、学校組織として、子どもの状況に応じた適切な支援を進めていくことが必要です。本資料では、このときに大切にしたい「子ども理解」「チームの力」「見通しと粘り強さ」という3つのアプローチについて紹介します。



「子ども理解」を深める!



誰もが行きたくなる学校・学級づくりは、子ども一人一人の理解から始まります。日々変わる子どもの心を、様々な側面から見つめていきましょう。

●その子の言葉や行動には、どのような意味があるのでしょうか?

子どもはサインを出しています。それを見つけられる大人は、圧倒的に親と教員です。

心揺れる不安定な年頃なんだよ。

一人一人が違うんだよ。

私たちをこんなふうに見て!

友達や学級全体との関係から見てね。

毎日変わるんだよ。少し長い目で見て!

今、興味をもっていることを知ってる?

家庭や性別などの事情も考えてね。

良い所をたくさん見つけて!

言葉や行動に隠れた本心に気づいて!

様々な悩みをもつ同じ人間だよ。

次のような場面が「子ども理解」のチャンスです。

- ◇ 子どもと談笑できる**休み時間**や**放課後**
- ◇ 頑張りを見つけて認めることができる**日々の授業**
- ◇ 集団の中での状況が見えてくる**班活動**や**学級活動**
- ◇ 別の一面が見えてくる**児童会・生徒会活動**や**異学年交流** 等



自分を素直に表現できる場づくり

●「子ども理解」を助けるツールを用意していますか?

次のようなツールを効果的に活用することで、「子ども理解」を助けます。

毎日の生活を振り返る簡易シート(例)

きょう 今日のリフレクション

()月()日()曜日

がっ になち よび

なまえ 知前()

今日の気持ちはいかがですか?
※どれか一つに○をつけよう!

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

こんなことがあったよ!

- ◆ 日々の気持ちの変化を捉えることができます。
- ◆ 友達とのコミュニケーションを促すことができます。

いくつかの分析項目を設けたアンケート(例)

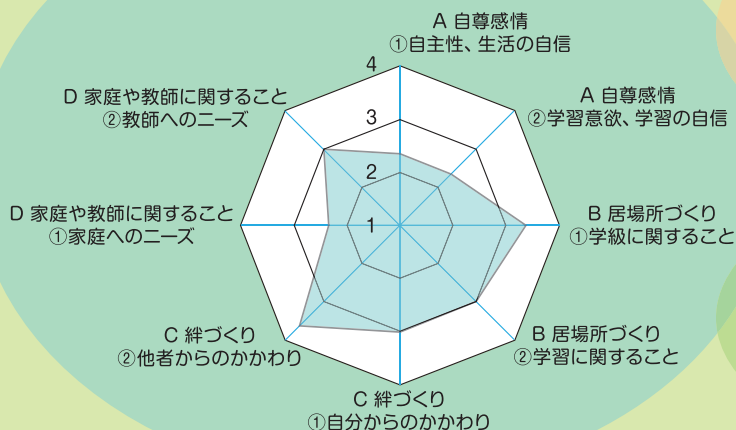
今の自分を見つめてみよう



分析項目	質問項目	は い どちらかと言えは い どちらかと言えは い いえ				主な対応	
		4	3	2	1		
A 自尊感情	①自主性、生活の中での自信	③ 私には、良いところがあると思う。	4	3	2	1	認める・称賛するなどの かかわりの 充実
		⑪ 私は、自分のことが好きだ。	4	3	2	1	
		⑲ 私は、「やればできる」という気持ちで何でも挑戦している。	4	3	2	1	
	②学習意欲、学習における自信	⑦ 私は、授業中、進んで発表している。	4	3	2	1	
		⑲ 私は、勉強ができるように努力している。	4	3	2	1	
⑮ 私は、勉強することが楽しい。	4	3	2	1			
B 居場所づくり	①学級に関すること	① 私のクラスは、明るく楽しい感じがする。	4	3	2	1	学級づくり・ 授業づくりの 見直し
		⑨ 私のクラスは、いろいろな活動に協力して取り組んでいる。	4	3	2	1	
		⑰ 私は、クラスの中で安心していられる。	4	3	2	1	
	②学習に関すること	⑤ 私のクラスの人は、授業中、私の発表をよく聞いてくれる。	4	3	2	1	
		⑬ 私のクラスは、授業中、落ち着いて勉強している。	4	3	2	1	
⑳ 私のクラスは、授業中、発表しやすいと思う。	4	3	2	1			
C 絆づくり	①自分からのかかわり	② 私は、まわりの人の役に立ちたいと思う。	4	3	2	1	子ども主体の 交流活動・ 体験活動の 充実
		⑩ 私は、友達に自分の気持ちを伝えるようにしている。	4	3	2	1	
		⑱ 私は、進んで人と仲良くするようにしている。	4	3	2	1	
	②他者からのかかわり	⑳ 私のクラスの人は、私に親切にしてくれる。	4	3	2	1	
		⑭ 私には、自分の気持ちを分かってくれる友達がいる。	4	3	2	1	
⑥ 私のクラスの人は、私にいやなことをしたり言ったりしない。	4	3	2	1			
D 家庭や教師に関すること	①家庭へのニーズ	④ 家族の人は、私のがんばりを認めてくれる。	4	3	2	1	家庭との 連携、 教育相談の 充実
		⑳ 私は、つらいとき、家族の人に相談できる。	4	3	2	1	
		⑫ 私は、家族の人といっしょにいと安心する。	4	3	2	1	
	②教師へのニーズ	⑧ 先生は、私をほめてくれる。	4	3	2	1	
		⑯ 先生は、つらいときに私を励ましてくれる。	4	3	2	1	
		㉒ 先生は、私の気持ちを分かってくれる。	4	3	2	1	

アンケート用紙等は、香川県教育委員会義務教育課ホームページからダウンロードすることができます。
<http://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/gimu/index.html>

◆項目別の分析によって対応の方向性を見出すことができます。



◆観察者と子どもの認識のズレを見つけることができます。

〈子ども〉
回答



〈観察者〉
その子の
回答予測

◆アンケートをきっかけにして、教育相談を進めることができます。





チームの力を発揮する!

子どもに効果的にかかわるために、チームで対応することが大切です。どのようなチームをつくり、どのように対応すればよいのでしょうか。



●「共通のかかわり方」がありますか?

チーム対応の基本は、共通に取り組むことを見出して実践することです。

〈取組例〉

- 子ども一人一人の良い行いを見つけて認める
- 子どもと一緒に活動する（汗を流す）場を設ける
- 子どもの小さな頑張りをみんなに紹介する場を設ける
- 子ども同士で良いところを認め合う機会をつくる
- 毎時間の授業の中で、子ども同士が話し合う場を設ける など



●「気にかけていく子ども」を明確にしていますか?

校種を越えて情報を収集し、予防的対応に生かしていくことが重要です。

事前に気にかけておく子ども

- これまでに不登校傾向だった子ども（小学校中学年からの情報も重要）
- 前年度に欠席15日以上の子ども
- これまでに遅刻や早退が多かった子ども
- いじめ等の被害にあった経験がある子ども など

変化を察知したら気にかける子ども

- 遅刻・早退が目立ち始めた子ども
- 休み明けや特定の曜日によく休む子ども
- 保健室や教室以外で居ることが増えた子ども
- 休み時間によく一人で居る子ども
- 一緒にいる友達が変わった子ども
- 学習意欲が低下している子ども など



声かけ等を通した状況把握

●「休み始めたときの対応」を決めていますか?

子どもが休み始めたとき、早期に対応することが深刻化を防ぎます。



〈効果的な対応例〉

第1段階

◆電話連絡

- ・欠席理由の確認
- ・家庭での様子の聞き取り
- ・「心配している」というメッセージ

第2段階

◆家庭訪問

- ・受容的な態度
- ・表情等の観察
- ・保護者との信頼関係
- ・家庭環境の把握

第3段階

◆チーム対応

- ・対応チームの確認（担任、養護教諭、SC、SSW等）
- ・意図的な温かい言葉かけ
- ・チーム内での情報交換

※「SC」はスクールカウンセラー、「SSW」はスクールソーシャルワーカーを表しています。

●メンバーの関係は、良好ですか？

チーム力が発揮できるかどうかは、チーム内の望ましい関係の有無によって大きく左右されます。

- 気軽に情報交換できる関係（談話スペースや伝言メモの活用）
- 「支え合う」というより「補い合う」関係（かかわりに重なり）
- 「助けて」と言える関係（問題を一人で抱え込まない）
- 保護者をメンバーの一員に！
（保護者を指導や支援の対象と決めつけない）



●どのようなチームづくりが効果的ですか？

生徒指導委員会のような組織とは別に、少人数の機動的なチームをつくるのが有効です。

- 2人いればチームになる（実働的な少人数チーム）
- チーム会議なしO. K.（対応の共通理解や情報交換は日常的に話すことから）
- 違う持ち味のメンバーで構成（子どもの心の代弁者がキーマン）



■コミュニケーションのコツは、「face to face」「短時間」「不定期」

■支援の方向性（目標）や方針



■役割分担



■対応状況の報告



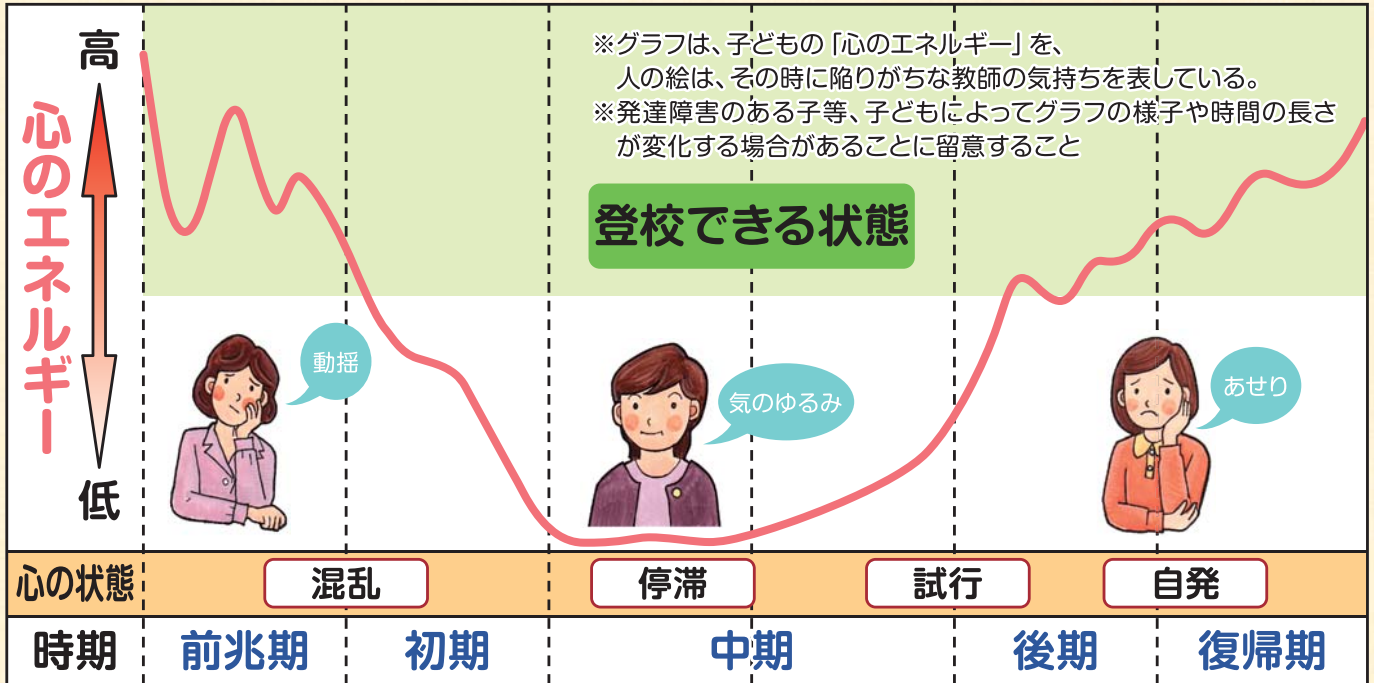
見通しをもって 粘り強くかかわる!

欠席が継続しても、学校や学級とのつながりを保つことが必要です。支援の見通しをもって、子どもの変容を捉え、柔軟な対応を心がけましょう。



●子どもの心の状態は、どの時期ですか？

子どもはやがて回復するという見通しをもって、それぞれ時期に応じた対応を考えていくことが大切です。



※「心のエネルギー曲線」(佐賀県教育センター)を一部改変し加筆

1 前兆期〈サインを出し始める時期〉

〈子どもの様子〉
 ・元気がなくなる。
 ・一人であることが多くなる。
 ・忘れ物が多くなる。
 ・保健室をよく利用するようになる。
 ・身体の不調をよく訴えるようになる。
 など

※まだ欠席や遅刻には表れていない。

不安を和らげる

〈対応例〉

- 本人へ** ・温かい言葉かけ (気にかけている気持ちを伝える。)
- 保護者へ** ・定期的な情報交換 (心の状態を理解する情報を集める。)
- 学校** ・本人の周囲にいる支援者を把握 (支援者と協力してかかわる。)

2 初期〈欠席が目立ち始める時期〉

〈子どもの様子〉
 ・身体症状(腹痛、頭痛等)が出てくる。
 ・物や人に当たることが増える。
 ・食欲・睡眠等の生活リズムが乱れる。
 ・人を避けるようになる。
 ・家では、学校の話に拒否感を示す。
 など

安定を図る

〈対応例〉

- 本人へ** ・原因追及より、本人のストレス軽減 (辛さに共感する。守る姿勢を示す。)
- 保護者へ** ・本人の意思を尊重したかわり (過度の干渉を控える。)
- 学校** ・学校内での本人の居場所づくり (養護教諭、SC、SSW等と連携する。)

3 中期〈自分の世界を大切に作る時期〉

エネルギーの蓄えを支える

〈子どもの様子〉

- ・部屋に閉じこもり、家族とのかかわりが少なくなる。
- ・しばしば昼夜逆転した生活になる。

↓ (徐々に変化)

- ・気持ちが外に向き始める。
- ・家族への気遣いをするようになる。
- ・家族と外出できるようになる。 など

〈対応例〉

本人へ

- ・家庭訪問や電話による穏やかなかわり(じっくり話を聴く。見守る。)

保護者へ

- ・家事手伝い等を通じた親子のかかわり(あせらず、気持ちを楽しんでもつ。)

学校

- ・本人の存在感を教室内で維持(欠席している本人の気持ちを思いやる。)
- ・保護者とのつながりを維持
- ・相談機関等との連携

4 後期〈外への活動が増えてくる時期〉

自己決定の機会をつくる

〈子どもの様子〉

- ・自分を肯定する言葉が出てくる。
- ・興味あることに気まぐれながら取り組む。
- ・学校への関心が高まる。
- ・一人での外出が容易になる。
- ・担任や友達と会うようになる。 など

〈対応例〉

本人へ

- ・本人との会話を広げるかわり(学校や勉強以外の雑談を大切に。)

保護者へ

- ・好転の兆しを確認(保護者の労をねぎらい、ともに喜ぶ。)

学校

- ・受け入れ体制の準備(本人の了解により、友達と接触させる。)

5 復帰期〈学校に足向け始める時期〉

無理をさせず自発的に

〈子どもの様子〉

- ・気分によって時々登校できるようになる。(別室登校の形態をとるのが一般的)
- ・休日や放課後に友達と遊ぶようになる。
- ・家族とよく話をするようになる。
- ・生活リズムが整い、学習に取り組む。 など

〈対応例〉

本人へ

- ・本人の前向きな気持ちに寄り添うかわり(可能な目標を一緒に考える。)

保護者へ

- ・本人の学校での様子を情報提供(過剰に期待させないように伝える。)

学校

- ・復帰プログラムの実施(本人の意思を尊重し、無理をさせない。)

●家庭訪問の際には、どんな心得が必要ですか？

子どもや保護者への心理的な圧迫にならない配慮が必要です。

家庭訪問の前に

- 子どもの状況を保護者に聞いておく。
- かわり方について、SCやSSW等に相談しておく。
- 「先生には無理に会わなくてもよいこと」を、子どもに伝えておく。
- 子どもの興味や関心のある話題を集めておく。
- 可能ならば2人で訪問できるように協力者を求める。(SC、SSWを含む)



家庭訪問をするときに

- 子どもが会ってくれなくても焦らない。
 - 機が熟すまで会わずに見守ることが良い場合もある。
 - 保護者の不安に寄り添い、「一緒に考えたい」という姿勢を示す。
 - 保護者に心のゆとりをもってもらうことで、子どもの気持ちを安定させる。
- 子どもの気持ちをイメージしながら支援策を探る。
 - まずは「会ってくれたことがうれしい」という気持ちを伝える。
 - 子どもと一緒にいる時間を楽しみ、安心感や信頼関係をつくる。
 - 「がんばれ」と言うのではなく、ありのままを受け入れて認めていく。長所やできていることを言葉にして返す。

●教育相談担当教員の役割

教育相談を組織的に行うためには、コーディネーター役の教員の存在が重要です。

- ◆ **き** 教育相談活動の計画・実施
- ◆ **よ** 養護教諭との連携協力
- ◆ **う** 運営（不登校対策委員会、事例検討会等）
- ◆ **こ** 校内研修での教職員の資質向上
- ◆ **そ** 相談室等の環境整備
- ◆ **す** SC、SSW等との連携協力
- ◆ **て** 適応指導教室等との連携協力
- ◆ **き** 記録簿の作成・管理・活用
- ◆ **な** 和やかな情報交換の場づくりと情報収集
- ◆ **え** エンカウンター等の計画・実施
- ◆ **が** 学級担任との連携協力
- ◆ **お** おうち（家庭）への情報提供（たより発行等）



●研修サポートの活用

香川県教育センターでは、校内研修のサポートを行う出張相談を行っています。

☆研修サポート依頼 香川県教育センター教育相談課
TEL:087-833-4238 (H27.4月まで) 087-813-0945 (H27.5月から)

- ◇親と子のかかわり方……具体的な子育て話と保護者同士のワークショップで和やかな情報交換の場を設けます。
- ◇ケース会議……ケース会議のメンバーとして参加します。
- ◇人間関係づくり……教員自身が生徒役になって模擬授業を体験し、その後の授業実践の支援も行います。
- ◇保護者とのかかわり方……学校ですぐに使えるカウンセリング技法について演習を行います。
- ◇その他のニーズに応じた内容



●相談できる関係機関

関係機関と連携するためには、その役割と業務を正しく理解しておくことが重要です。

区分	名称	相談内容	電話番号
県	香川県教育センター	不登校などに関する相談全般	・教育相談課 TEL：087-833-4238 (H27.4月まで) TEL：087-813-0945 (H27.5月から)
県	児童相談所	子どもの問題行動、子どもの養育に関する問題、虐待など	・子ども女性相談センター TEL：087-862-8861 ・西部子ども相談センター TEL：0877-24-3173
県	福祉事務所	家庭環境などに関する相談全般	・東讃保健福祉事務所（健康福祉総務課） TEL：0879-29-8253 ・小豆総合事務所（保健福祉課） TEL：0879-62-1373 ・中讃保健福祉事務所（生活福祉総務課） TEL：0877-24-9960 ・西讃保健福祉事務所（保健対策課） TEL：0875-25-2052
市町	教育支援センター	不登校などに関する相談全般	県内19ヶ所
市町	少年育成センター	家庭の問題、不登校、非行など、子どもの健全育成に関する相談全般	県内15ヶ所

